

住みよいたけし

2018年12月16日発行

事務所 武石地域自治センター内
TEL:0268-85-3667
<http://www2.marukotv.jp/~s-takeshi>
印刷 中澤印刷株式会社



靴飛ばし大会

…気持ちと靴の方向は違うようですが(笑)



11月11日(日)、武石総合グラウンドを会場に、地域の皆さん約200名が参加して、今年で第4回目となるスポーツ祭り「明日天気になーれ」が開催されました。

一点の雲もない快晴の空の広がったこの日、周囲の山々は赤や黄色に染まり、色とりどりの靴が青空に舞いました。

スポーツ祭りは、武石スポーツ協会、武石育成会連絡協議会、武石公民館の主催、上田市(武石市民サービス課・武石診療所)、住みよい武石をつくる会の共催により開催されました。

祭りのメインは靴飛ばし大会。就学前のお子さんからシルバーまで幅広い世代が楽しむことができました。飛ばしたつもりの靴がまだ足に残っていたり、あらぬ方向へ飛んで行ったり



ストライクとれたかな?

と、笑いを誘う場面が多く会場を沸かせていました。

このほか、グラウンドゴルフやいくつかのニュースポーツも行われ、会場の中心ではキッズダンスが祭りの盛り上がりに一役買っていました。

お楽しみコーナーでは、マジックバルーンアートやシャボン玉遊び、豚汁・綿アメ・ポップコーンの振る舞いがあり、小さな子供から年配者まで小春日和の一日を満喫していました。

たけし健康ウォーキングが 開催されました ～参加の記～

住みよい武石をつくる会会長 児玉卓文

11月4日(日)、里は紅葉の盛り、奥山はもう裸木となっているだろうが、眺めは効くだろう。元禄17(1704)年4月8日、上田藩仙石家は武石村の山境検分を行った。藩から三奉行、目代、代官、絵師(絵図面を作成)が出張し、村役人の大井善右衛門(1651年から1720年まで代々庄屋)、桜井勘右衛門、中原彦之丞、橋詰彦三郎が案内をして、腰越境の首切岩から西へ烏屋・藤澤・熊沢・内之山・広川原、転じて東へ荷多禰・横沢・子檀倉・たから松・保代・飯代山と16里24間(約64km)を踏破した。翌宝永2年(1705)には、立岩村、有坂村との間で山論(山の境の争い)あり、村役人が奔走するという歴史がある。

山稜の村境を歩いてみたかった。稜線上でアッチとコッチの微妙な気配、吹く風の違いを体感したいと思った。

今回のウォーキングは、「上田地域トレッキングマップ」ゾーンB-3に紹介された「物見石山コース」(片道3時間20分)の一部、美の国別荘地の頂上公園(1500m)から小沢の頭(1848m、小沢根のテッペン)を往復する約2時間弱のコースである。



白樺と熊笹の稜線を歩く。右が武石分、左和田分

バスで頂上公園に着く、曇り空が眺望が効く程度には晴れた。佐久から甲信国境に連なるが山々が見晴らせる。数人の先客がいる。インストラクター川北九州男さんに山々の紹介をしていただいて、さあ、ウォーキング開始。

人工林のカラマツ林から白樺林、そしてダテカンバの林内は眺望なしの尾根道歩き。熊笹が綺麗に刈られた跡には、スギゴケ・ミズゴケが瑞々しい。春から夏には、小路の両側に色々な植物が可



笹平より、手前武石谷の山々、遠方は上信国境の峰々を臨む中央の狭い谷間に浮ぶように見えるのが沖の小山

憐な花を咲かせ、眼を楽しませてくれるという。尾根の北側(武石分)をトラバースしてダテカンバの美林を抜けると、武石・丸子など小県の谷々から山の裾を駆け上って上信越国境の山並みへと続く展望が開けた。ハッと息を飲み、しばし見とれる。

「野々入沢出合」の案内標示で、小沢の頭に向け



て左に折れ、ガレ場を登る。ガレ場には、人が礫を並べたような大小の亀甲模様見られる。参加者の小山和博さん(地質の専門

家)によれば、冬季の厳しい凍結の繰り返しにより礫が移動して形成されるのだという。



小沢の頭からは、ま近に美ヶ原・物見石山、転じて蓼科山・八ヶ岳、さらに浅間山・四阿山などなど、ただただ眼を見張る。再び小山さんから武石谷の成り立ちとそれを構成する岩石などの説明をいただく。

心地よい疲労感に満足し、それぞれの思いを語りつつ、雲溪荘にて美味しい昼食をいただいた。



I Love TAKESHI

武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体

就労センター武石
ふれあい

事業長 小池浩子さん

(社会福祉法人 縦(もみ)の木福祉会)

下武石の「上田市社会就労センター武石事業所」(旧武石村授産所)は民間に経営移譲され、今年の4月より障がい者に特化した就労支援施設「就労センター武石ふれあい」(就労継続支援B型)としてスタートしました。施設は、長和町で「山の子学園共同村」などを経営している「社会福祉法人 縦(もみ)の木福祉会(長野支部)」が運営にあたります。

現在、旧武石事業所からの移行者を含めて約20人の人達が「ふれあい」に通い、事業所内の作業場で機械部品の加工や包装、菓子の箱折、毛皮の加工などの作業を行っています。旧武石事業所から引き継いだ企業からの受託作業が継続しており、現状の作業人員でほぼ手いっぱいとの事でした。

「ふれあい」事業長の小池浩子さんは、「武石の事業所の皆さんはとても仕事熱心で、仕事への意識の高さに驚いています」と開所後の感想を話していました。

今回、「ふれあい」の移譲を受けた縦(もみ)の木



福祉会(本部は兵庫県神戸市)では、昭和52年に長和町大門に障がい者支援施設「山の子学園共同村」を開設しました。その後もグループホーム「色えんぴつ」、生活介護事業所「和いわい」、就労支援施設「ぶらっと」などを開設し、約40年間にわたり依田窪地域での障がい者福祉事業に貢献をされています。

「ふれあい」は、縦(もみ)の木福祉会での武石初の事業所であり、「今後の需要を見ながら、地域に密着した新しい事業を開拓していきたい」、また「事業所や縦の木福祉会の事を皆さんにもっと知ってもらう為に、イベントなどを企画していきたい」と小池さんは今後の抱負を話していました。

なお、「今後も事業所の利用者を増やしていくつもりなので、興味がある方は気軽に見学に来てください」とのことです。

Takeishi Autumn Festival

おさんぽギャラリー秋 第2回 仮装大賞

11月3日(土)、第24回武石支所JAフェスティバルと武石おさんぽギャラリー秋が、また4日にかけてはともしびの里文化祭が開催され、素晴らしい秋晴れに恵まれ、大勢の人出でにぎわいました。

JAフェスティバルは、地元農産物、魚介類即



売のほか人気のうどん、地元のそばなどの食い倒れコーナーなど、そして、おさんぽギャラリーでは、手作り品や酒・みそ・飴などの特産農産品、懐かしい音楽の流れる店などの店、カレーうどんの店などが出店し、人々が足を止めていました。

あわせて「第2回 集まれ! 仮装大賞」も開催されました。今春に第1回が開催され、せり上がり式の電飾得点板やバックの効果音などテレビの「仮装大賞」の番組そのものだということで、近隣の地域でも話題になりました。

今回も総監督・演出・効果音はテレビ4回出場の武石郵便局長滝沢和弘さんが、また司会は武石・未来・つながるプロジェクトの櫻井奨さん、審査委員4名も剣道着の剣士姿や、本会の児玉会長も「ウォーリーを探せ」のウォーリーに扮し審査に臨みました。

今回の出場は8組、それぞれ趣向を凝らした仮装や演技に会場は笑いに包まれました。優勝は、長澤良子&フレンズの皆さんの「白雪姫とこびと」が受賞しました。素晴らしい手作りのイベント、来年も盛り上がりそうですね。

仮装大賞写真特集



シャーロックホームズに扮した滝沢総監督



優勝した「白雪姫とこびと」
可愛い仮装に高得点



テレビと同じ?
電飾得点板 20点満点



忍者装束、
櫻井奨さんの司会進行



「かんいち お宮」
“武石飴”のおいしさに目がくらんだお宮
貫一さん、蹴飛ばさないでね



「花嫁」
キツネの? 若く化けましたか?

ともしびの里駅伝大会 ボランティア大活躍



10月28日(日)、ともしびの里駅伝大会が開催され、今年は、87チームが健脚を競いました。

昨年とは打って変わって、この日は素晴らしい快晴に恵まれ、選手の皆さんは紅葉が始まった武石の秋の風景の中を駆け抜けました。今年で29回を迎え、全国的にも名が知られるようになり、

優勝した「チームタワシ」は栃木県から参加したほか、東京、愛知など県外から4チームが参加しました。

この大会は、選手の安全確保や輸送、車の誘導等々大勢のボランティアに支えられています。そして、保護者会、生活改善グループ、商工会の皆さんなども焼き鳥やうどんの屋台を出したりと、参加者・関係者のおもてなしのため武石地域の大勢の皆さんが大会を盛り上げました。



給水所のボランティア



テレビ出場経験豊富な
小倉博明さんの
「噴火でdance!」



「武石に秋が来た」
ツツガムシ大王が降参し武石は松茸大豊作



「ミニオン」って？



「やぶあい矢武試合場」つまり流鏝馬
矢が当たってのが割れたアイデアに拍手



準優勝「ふれんず おぼけnoめだまーず！」 目玉がいっぱい

安心して老いを迎えられる まちづくり

い内科クリニック 井 益雄 院長 講演

11月21日(水)、武石地区社会福祉協議会が主催して、い内科クリニック 井益雄院長の講演会が武石公民館で開催され、50人が参加しました。医療、福祉関係地域づくりを進めるうえで大変参考になる内容でした。



～井院長講演の要旨～

上田市新田に住んで医院を開業しているが、10年ほど前、新田自治会の役員(衛生関係委員)に選出され、ゴミ処理や環境づくりを通じ、地域との関りが大事だと感じた。以前の病院勤務時は、ただ続けることのみでの延命医療に疑問を持ち、本人の望む医療は何かと考えてきた。

2年の役員任期を終わった後、役員仲間と定期的に「飲み会」を3年ほど続ける中で、高齢者が望む医療・福祉の充実のためには、地域住民の関わるのが大事ということになった。核家族化、高齢者のみの世帯が増加し、本人の望みと違い家庭で介護を受けることが大変難しい時代となっている。それを実現するには、医療・福祉だけでなく、住民が一緒になった「地域全体で支えあう介護」の体制が大事と思う。

NPO法人「新田の風」はそうした考えから設立され、地域住民、医師、薬剤師、ケアマネージャー、小規模介護施設などが協力し合いながら、在宅を望む高齢者を支える仕組みを担っている。

在宅で安らかな看取りを実現するためには、①元気なうちの仲間づくり ②高齢者を地域で支えられるサービスチーム作り ③必要に応じサービスを調整するチーム会議 ④本人の願いとして、どんな介護を受けたいか、人生のしまい方、思いをつなぐノートなどを準備しておく等が大切。

自分たちの将来は、自分たちが守るという強い意志を持った地域住民が立ち上がり支えあうことが、未来を切り開くことにつながる。

小学生がつくる未来の提案



11月12日(月)、武石小学校5年生20人が担任の上原美紀先生とともに武石地域自治センターを訪れました。

国語の時間に、「伝える力」として「私たちがつくる未来の提案」をグループごとに話し合いまとめたことを、地域の大人たちに提案するためです。提案を聞くのは、地域協議会委員、自治連役員、住みよい武石をつくる会運営委員などです。

5年生は、3人から4人のグループで検討した、交通安全、空き家対策、お祭り(イベント)で地域づくり、大せぎ用水の洪水対策、小学校のパソコン教室の利用など6つの提案が発表されました。いずれも地域の課題となっていることに対し、子供の目線からの提案でした。空き家を利用して人を招くことや、雪合戦大会・かまくらづくりによる誘客の提案など具体的なものもあり、イベントで地域を盛り上げたいという提案が2つのグループからありました。

住んでいる環境の改善や、地域活性化を通じて武石地域を良くしたいという子供たちの意見に、聞いていた大人たちも熱心に聞き入り、質疑応答をしていました。提案が実現できれば素敵ですね。

地域のイベント&お知らせ

●平成31年 上田市成人式 武石会場

日時 1月13日(日)11:00～
場所 武石公民館コミュニティーホール
対象 平成10年4月2日
～平成11年4月1日生まれの方

●たけし共育フォーラム 2019

日時 1月19日(土)13:30～16:50
場所 武石公民館コミュニティーホール
内容 話題提供・分散会
通学合宿、地域未来プロジェクト(南中生)
ふれんず武石児童館、
たけしカルタ歴史さんぽみちなど
主催 本会 子育て・教育文化部会